



# サロンあべの

## 特別養護老人ホームと地域との「コミュニティ」

〈サロン・あべの〉9月の出会い

真を迎えて日頃活動されている

て、その終了後、このまま別れて

暑さの残る平成18年9月16日

「特別擁護老人ホームと地域との

しまうのはもったいないという

（土）午後1時～4時、育徳コミュ

ニティセンター2階研修室で、

を伺いました。

ことで、7人の仲間が集まり、自分たちに合ったボランティア活動をすることに、

〈サロン・あべの〉9月の出会い

「すみれ会」との出会い

会」を設立。それから、何が自分たちに合った活動であるかを

（＝次頁写真）を開催しました。

この日は、安藤黎子さん（すみ

れ会「サロンいたみ」代表＝左写

安藤さんは、自己紹介で息子

3人を育てあげた普通のお母さ

んといわれた。が、その子

どもさん方が成長されると共に、PTAの活動に関わりだして小・中・高校とPTA会長も務められた。その人脈から幅広いお付き合いが生まれて、子どもの手が放れてからはサークル活動などいろいろな活動に関係してこられた。ある女性

講座で1年間学ぶ機会を得

て、その終了後、このまま別れて

しまうのはもったいないという

こと、7人の仲間が集まり、自分たちに合ったボランティア活動をすることに、

会」を設立。それから、何が自分たちに合った活動であるかを

会」を設立。それから、何が自分たちに合った活動であるかを

会」を設立。それから、何が自分たちに合った活動であるかを

会」を設立。それから、何が自分たちに合った活動であるかを

会」を設立。それから、何が自分たちに合った活動であるかを

会」を設立。それから、何が自分たちに合った活動であるかを

会」を設立。それから、何が自分たちに合った活動であるかを

会」を設立。それから、何が自分たちに合った活動であるかを

会」を設立。それから、何が自分たちに合った活動であるかを

会」を設立。それから、何が自分たちに合った活動であるかを

会」を設立。それから、何が自分たちに合った活動であるかを

会」を設立。それから、何が自分たちに合った活動であるかを

会」を設立。それから、何が自分たちに合った活動であるかを

会」を設立。それから、何が自分たちに合った活動であるかを

会」を設立。それから、何が自分たちに合った活動であるかを

会」を設立。それから、何が自分たちに合った活動であるかを

会」を設立。それから、何が自分たちに合った活動であるかを

会」を設立。それから、何が自分たちに合った活動であるかを

会」を設立。それから、何が自分たちに合った活動であるかを

会」を設立。それから、何が自分たちに合った活動であるかを

会」を設立。それから、何が自分たちに合った活動であるかを

会」を設立。それから、何が自分たちに合った活動であるかを

会」を設立。それから、何が自分たちに合った活動であるかを

会」を設立。それから、何が自分たちに合った活動であるかを

会」を設立。それから、何が自分たちに合った活動であるかを

会」を設立。それから、何が自分たちに合った活動であるかを

会」を設立。それから、何が自分たちに合った活動であるかを

会」を設立。それから、何が自分たちに合った活動であるかを

会」を設立。それから、何が自分たちに合った活動であるかを

食などに入っていた。そこで、施設とも話し合いを持って、ホームの人を外にお誘いしたり、地域の人たちを交えて活動していただくことにした。

春は、花見会。秋には絵手紙や音楽会などを企画。そのイベントがない場合は、施設の高齢者とゆつくり話をする時間を持つ。

運営はすみれ会の会員が3000円の会費を出して積み立て、それを資金にイベントの費用に当てている。おおむね1回5000円を予定しているが、それで収まらないこともある。その時は、周りの知人や知り合いのグループに助成や協力をお願いしている。そんな時にこれまでお付き合ってきた人たちが大きな力になっている。また、それぞれの旦那さん方も時間があれば積極的に活動を支援協力してくれるので、助かっている。この

後、定年を迎え時間を持て余したときには、共に活動を楽しめるような関係を持っていただいても思っている。

施設の人たちの中には、殻にこもって、人と喋らず、自分の世界を作っている人もいるが、何かのきっかけで本来の自分を取り戻す、あるいは心を開くことがあるのを知った。ある時も、

口の音楽家が歌いだすと、それに合わせて普段あまり喋らなかつた人が歌いだした。驚いて聞くと、その人は昔音楽の先生をしていたという。また、ピアノ演奏をしてくれた人もいた。

本物を企画すると十分満足してもらえることが分かった。その反対にレベルが低かったり、手抜きと分かるものには、「しよるもな」、「かえるで」となかなか手厳しい。

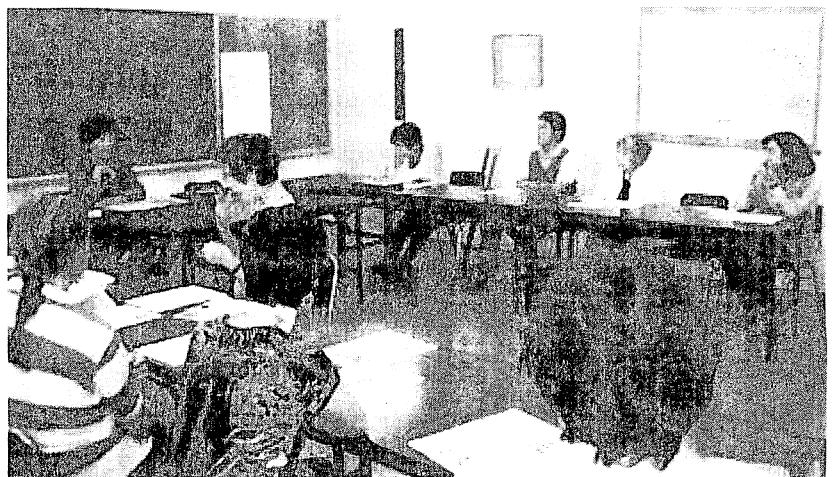
プロの朗読や、マリンバ演奏

などの時は、地域の人達も多数参加してとても喜ばれた。

また、子どもさんとの交流も喜ばれる。民族舞踊やハンドベル演奏など学生さんでもレベルの高い表現で大いに喜んでいただいた。

ワインのソムリエが来てくれた時は、施設の人はもちろん、地域の方々、職員の方にも大いに楽しんでいただいた。こちらの活動に協力してくださる方は、親身になって支援していただけるので嬉しい。その感動を胸に本物に接していただけるよう心がけてこれからもやって行こうと思った。

伸幸苑は、最上階は寝たきり



の人が多いため、じっくりお話を聞くことにしている。その階下には車いすの人がいて、イベント以外に絵手紙など手作業も喜んでいただいている。



ルネッサンス様式の  
美しい赤煉瓦の  
中之島・中央公会堂でうたいます

歌=夜と霧  
愛の十字架  
旅路の果てに  
理由もなく  
さとうきび畑  
ボン・ボヤージュ  
行かないで 他

◆大阪公演  
日 時= 11月15日(水)  
開場 17時30分  
開演 18時  
会場=大阪市中央公会堂  
入場料=前売¥5000  
当日¥5500  
(全指定席)  
演奏=西川真トリオ+  
弦楽アンサンブル  
チケット取扱・ご予約・お問合せ=  
奥田真祐美音楽事務所  
TEL・FAX 06-6692-8774

出会いから10年

う。

すみれ会が「サロンいたみ」の活動を始めて今年で10年になった。今後のことは、分からないがこの節目をきちんと捉えた事業をしたいと考えている。人間として、本物の心で最後まで接していきたい。そして、これからも活動を長く続けていきたいと思

安藤さんは、爽やかな語り口で的確にお話をしていただいて、共感の輪が広がりました。休憩後に皆さんから感想を伺いました。

史を大切に思う人がいてほしい。

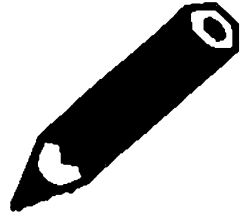
認知症の人に塗り絵がいいかと、子どもの塗り絵ではほとんど取り組む人がいないらしい。プライドを傷つけてしまうのでしよう。

人は年齢と共に成長していき、そして老いていく。その当たり前のことを忘れないようにしたいと思つた(サロン・あべの)9月の出会いでした。

認知症になつても知性と学歴は残る。その人に合った対応を痛切に感じた。

(参加者16名 富田慶子)

32



## 邦子、 ..ん歳の手習い。

脳死は人の死か？

「死の法」研究集会（9月18日）に参加しました。「脳死」臓器移植法「改正」と尊厳死法案の検証という副題のついたこの集会は、安楽死・尊厳死法制化を阻止する会と良い死研究会の主催で行われました。大会の主旨は「2006年3月25日、富山射水市民病院で7名の入院患者の人工呼吸器が外された事実が発覚して、終末医療に関して大きく報道され、今、尊厳死法制化やガイドラインづくりの動きがみられる。臓器移植法改正案としては、A案は「脳死」を一律に死とし、本

人が臓器提供拒否を明記している以外は、家族の同意で臓器摘出できる、B案は、本人の書面による意思表示の年齢を15歳から12歳に下げる、C案は、6歳以上12歳未満は保護者の意思で臓器提供できるなどの案が出ている。二つの「死の法」をめぐるのは、『本人の意志』『家族の同意』『法制定の是非』などで通底する点があり、「死の法」について検討する（研究集会資料より）というものでした。当日は、1990年から92年まで、厚生省の「臨時脳死及び臓器移植調査会（通称「脳死臨調」）の委員を務められた梅原猛先生のお話がありました。当時の「脳死臨調」では、脳死は死であるというのが大多数派の意見で、脳死は死ではないと強く主張するのは梅原先生を含む少数派でした。そして、臓器移植は、家族の承諾だけでいいという意見でまとまりかかったが、少数派が頑張つて、本人の意志でなければならぬと書かせたということでした。しかし、今回の改正A案では、一律に脳死は死であるとし、脳死者から臓器を摘出できるようなになると、弱者の人權が無視されることになるのではないかと先生は懸念され、次のような内容のことを語っておられました。

「人間の尊厳ということを考えてと脳死は死とは認めがたい。日本には、昔から死んでも生きて帰る可能性があるという「もがり」の風習があり、それは、死んでも死者への捨てがたい家族の思いが含まれている。私は臓器移植に必ずしも反対ではない。個人の意志があればそれを否定するものではない。しかし、メディアは移植を待つ家族や子供の報道は多く取上げるが、提供者のことはほとんど報道していない。海外では臓器売買の問題もあるとささやかれて

### 南アフリカの手仕事

#### 針と糸で描かれた暮らし

マブラ刺繍を中心とした南アフリカのポップアートを紹介します。

\*日時：平成18年11月4（土）～5日（日）  
午前10時～午後6時

\*場所：クレオ大阪南  
大阪市立男女参画センター南部館  
電話06-6705-1100

\*入場：無料

\*主催：トーマス・C・カンサ  
(ヒランガニ・ンゴタンド代表)

いる。日本でもわが子の臓器を売って生活を良くしようという親も出てくるのではないかと日本の今の殺伐とした状況をみると不安である。今の法律は臓器移植にとつて厳しいものと思われるかもしれないが、このくらい厳しい法をしつかり守らないと、医療の名のもとに殺人行為がまかり通ってしまう」

また、原田正純先生は水俣病を患者の立場から長年診断し、研究してきた医師ですが、次のようなメッセージを送られていました。「生と死に対する考え方は、もともと制度や規則になじまないものです。安楽死と言おうが、尊厳死と言おうが、死は一つです。死に関する考えは自由であり、法律で規制することにはなじみません。法律で死を規制することとはできません。死の真の尊厳を守る自由を尊重するためにも法制化に反対します」

私は身内の死に直面した時、万が一、臓器提供の選択を迫られたとしたら、理屈抜きで身内の臓器提供には同意できないと思っていました。もし臓器移植法改正案が法律になつてしまうと、自由にそう思うことすらできなくなるのではないかと感じました。

(定藤邦子)

私事で恐縮だが、昭和56年に結婚した私たち夫婦は今年の10月3日で25年、いわゆる銀婚式を迎える。

妻も私も身障者なので両家の家族や周囲の者から猛烈な反対があったが、それを何とか乗り越えて2人は結婚したのである。だが結婚した当初は心ない者から「あの夫婦は何年もつやろか」とか「1年続いたらええ方やで」と陰口も聞かれ、決して祝福されて結婚できたわけではなかった。

そんな人の期待？に反して、私たちは曲がりなりにも銀婚式を迎えることができたのである。このように今日まで結婚生活を続けてこられたのは2人の力だけでなく、両親をはじめさまざまな人のおかげであることは言うまでもな

い。妻は加齢とともに足腰が弱ってきて、今までできていたことがだんだんできなくな

ってきている。それでも妻はヘルパーさんが来てもらえない時は、私を風呂に入れたりベッドに寝かせたり起こしたりしてくれている。こういうことをよく分かっているのに「ありがとう」の一言がなかなか言えないのである。遅まきながら銀婚式を契機に妻には素直に感謝の気持ちを表せるようになりたいと

思っている。これから妻も私も何年生きられるか分からないが、有縁の人たちに支えられながら2人とも健康にはくれぐれも気をつけて日々を過ごしていきたい。

## 晴れのち晴れ 97

### 銀婚式を迎えて

稲垣 恵雄



## 成績をつける仕事 (下)

A君は真面目な学生だった。現在の福祉の  
 ありかたには正すべきところが多くあると信  
 じ、自分はその変えるために福祉の現場に  
 行くのだと考えていた。正義感の強い人だっ



たのである。彼が福祉のありかたで一番の問  
 題だと思つた点は、私がある授業で話したこ  
 とと関係していた。彼は、その問題を追究し  
 たいと考え、私を卒業論文の指導教員として  
 選んだ。

彼が選んだ問題を具体的に紹介することは  
 控えたい。その学生が誰かがわかってしま  
 うからである。しかし、それでは話がわかりに  
 くいので、ここでは仮に「福祉施設内の人権  
 抑圧」としておこう。福祉施設で利用者の虐  
 待が起きることがある。それなどは福祉施設  
 内の人権抑圧の代表的な例である。

さて、それから彼はいくつもの福祉施設を  
 訪れ、職員に話を聞いた。彼の態度は真摯な  
 ものだったが、職員は彼をあまり快く思わな  
 かった。というのは、彼はその福祉施設では  
 利用者の人権が抑圧されていると信じ、その  
 証拠を聞き出すような態度だったのである。  
 いくつもの施設を訪問したが、彼の態度が変

わらなかつたので、どこの施設でも彼は受け  
 入れられなかつた。私は、彼の施設の見方が  
 偏(かたよ)っていることを指摘したが、彼  
 は充分に聞き入れなかつた。

一方で、彼はたいへんな読書家だった。彼  
 の信念、つまり「福祉施設は利用者の人権を  
 抑圧している」という信念を補強する書物や  
 論文を数多く集め、それを丁寧に読み、整理  
 していた。

しかし、彼の卒業論文は他の教員から高  
 く評価されることはなかつた。彼の視点が  
 あまりに一面的であり、多くの福祉施設が  
 利用者の福祉の向上のために働いていると  
 いう基本的な事実を無視したものだつたか  
 らである。

さて、みなさんが彼の指導教員だったら、  
 この卒業論文にどんな点数をつけるだろう  
 か。とても真面目な学生が、熱心に資料を集  
 め、たいへんな量の本を読んで理解し、福祉  
 を良くしたいという真摯な思いから論文とし  
 ても形がよく整つたものを書き上げた。連日  
 の猛勉強の末に目を真っ赤にしながら、「よ

愛 - 博覧会

阿倍野区地域福祉行動計画の一環として、イベント「第2回あべの愛 - (アイ) 博覧会」が9月2日(土) 午後、阿倍野区役所2階で開催されました。平成18年4月から活動を推進している内容を広く地域の方々に知っていただいて、今後の地域福祉について意見をいただくためのものです。これまでの推進委員の活動を4グループ「安心なまちづくりチーム」「きれいなまちづくりチーム」「ふれあえるまちづくりチーム」「やすらぎのまちづくりチーム」に分けました。それぞれの活動内容をパネル展示してアピールしました。小地域サロン活動をしている「サロンひだまり」は、「やすらぎのまちづくりチーム」のメインになり、3枚のパネルいっばいに区内の地図を拡大して、子育てや高齢者の方々の憩える場所を明記しました。また、会場には多くのボランティアグループも参加しており、区内の福祉活動の一端を知ることができました。舞台では、推進委員の各チームが活動発表をしたり、子どもたちの演芸や、ミュージシャンのRYOEIさんのミニミニコンサート、○×クイズなどもあり、参加者一同が楽しみました。「ワンワンパトロール」のチームは、イメージソングを披露して強烈な印象を残しました。そして、その一角にくサロン・あべの>も参加しました。パネル2枚に、これまでのサロンの活動を写した写真や、これまでのチラシなどを展示して見ていただきました。その時々のサロンに参加してくださっている方々も多く来場されていて、思いがけない出会いを楽しみました。(け)

.....さきみみずきん

うやくできました！」と、やや頬(ほお)を紅潮させて私に分厚い論文を差し出す。しかも、その中心的な問題は私が授業で示したものであり、彼は一年生のときにそれを聞いて以来、四年生になるまで忘れずにいて論文として仕上げたのである。

人情から言えば、当然、指導教員は彼にA(最高の成績)を出すだろう。実際、その当時は、卒業論文の成績はよほどの駄作(ださく)でないかぎりAということになっていた。そして私も、ややためらったが、結局A

を出した。その結果はどうだったか。彼はAがついたことで、自分の信念の「正しさ」を改めて確認した。そして、彼の主張を受け入れなかった職員を軽蔑し、彼の論文の価値を認めなかった他の教員を批判した。私は彼を正当に評価している「唯一の人」となり「恩師」とも呼ばれるようになった。私は目の前の学生との人間関係が気まずくなることを恐れ、「いい先生」になることで、結局は彼が自分の「偏った見方」に気づく機会を奪ってしまった。多くの尊敬すべき人々

との交流の可能性が彼にはあったのに、それも同時に失われてしまった。

深夜まで続いた努力の結晶に低い評価を出すことは、一時的に(あるいは永久に)私に対する彼の悪感情を招くかもしれないが、長い目でみれば、彼にとつてそのほうが良かったかもしれない。そう考えると成績をつけるということは実に難しいのである。(知)

\*この稿は今年八月号の「成績をつける仕事(上)」の続きである。

# 美智子のこんな話

岸田美智子

高齢者・障害者部会の  
皆さんへ

この部会で障害者の問題を、いろいろ提案してきました。

その中で、まだまだ

この住吉区内では、生活を作っていない、区外の入所施設に入らざるを得ない、障害者の仲間がいることも、伝えてきたと思います。

このように、重度障害者が施設で生きていくとしたときの問題は、街作りや、労働問題、所得保障（生活費）介助者の問題、住宅の問題、教育の問題など多岐にわたります。

私が参加している「高齢者・障害者部会」に障害者問題を取り組むきっかけとして「トイレ貸します。一声運動」を提案しました。トイレの問題は、設備的にも不十分なところが多いので新しい基準作りも考えていけたらと思います。まずは、実態調査のためのアンケートを考えています。今後もいろんな動きを作っていけたら良いなと思っています。以下は、その時の文章と説明の図です。

始めて、6年になりました。私自身は、毎日どこにでも、用事があれば外出しています。そんなとき、心配になるのが車いすトイレの存在です。おまけに私の場合、トイレの時は、2人のヘルパーがいれば一番安全ですが、ヘルパーは1人体制です。なので、ボランティアの人も必要です。車いすトイレは、やはり

まだまだ、どこにでもあるというわけではありません。出かける前に車いすトイレは、あそこ、あそこにある、と、確認してから出かけなければなりません。このような車いすトイレの問題で、外出さえ諦めてしまう障害者の方もおられると思います。

この問題はきつと、老人の方々にも起こっている問題だと思えます。そして、小さな子どもや、急にお腹の調子が悪くなった健常者の方にも、起こる問題ではないでしょうか。もつと気楽に車いす障害者や、寝たきりの人（ストレッチャー）や、すべての人が、いつでもどこでも気軽に、外出できるためには、もつともつと使いやすい車いすトイレが、増えていくべきだと思います。重度障害者が地域で生きていくためには、生活を支えるトイレ



の問題を解決していくべきだと思います。

障害者が外出しやすい街は、当然、健常者も、暮らしやすい街です。また、何らかの生活問題があり、遠くの入所施設に入ってしまった障害者も帰って来やすい街になるはずで、重度障害者も、誰と、どこで、暮らすかを自己決定できる地域を作っていくことが、大切だと思います。

以上のような、考えに基づいて「トイレ貸します。一声運動」を提案して行こうと、考えました。下の図からも解るように、行政の役割や、企業や、いろいろな団体の皆さんにも、呼びかけていけたらと、思います。

皆さんのご意見をぜひ、お聞きしたいと思います。

○連絡先

社会福祉法人あいえる協会

自立生活センター・MYID くまいどく

担当 岸田

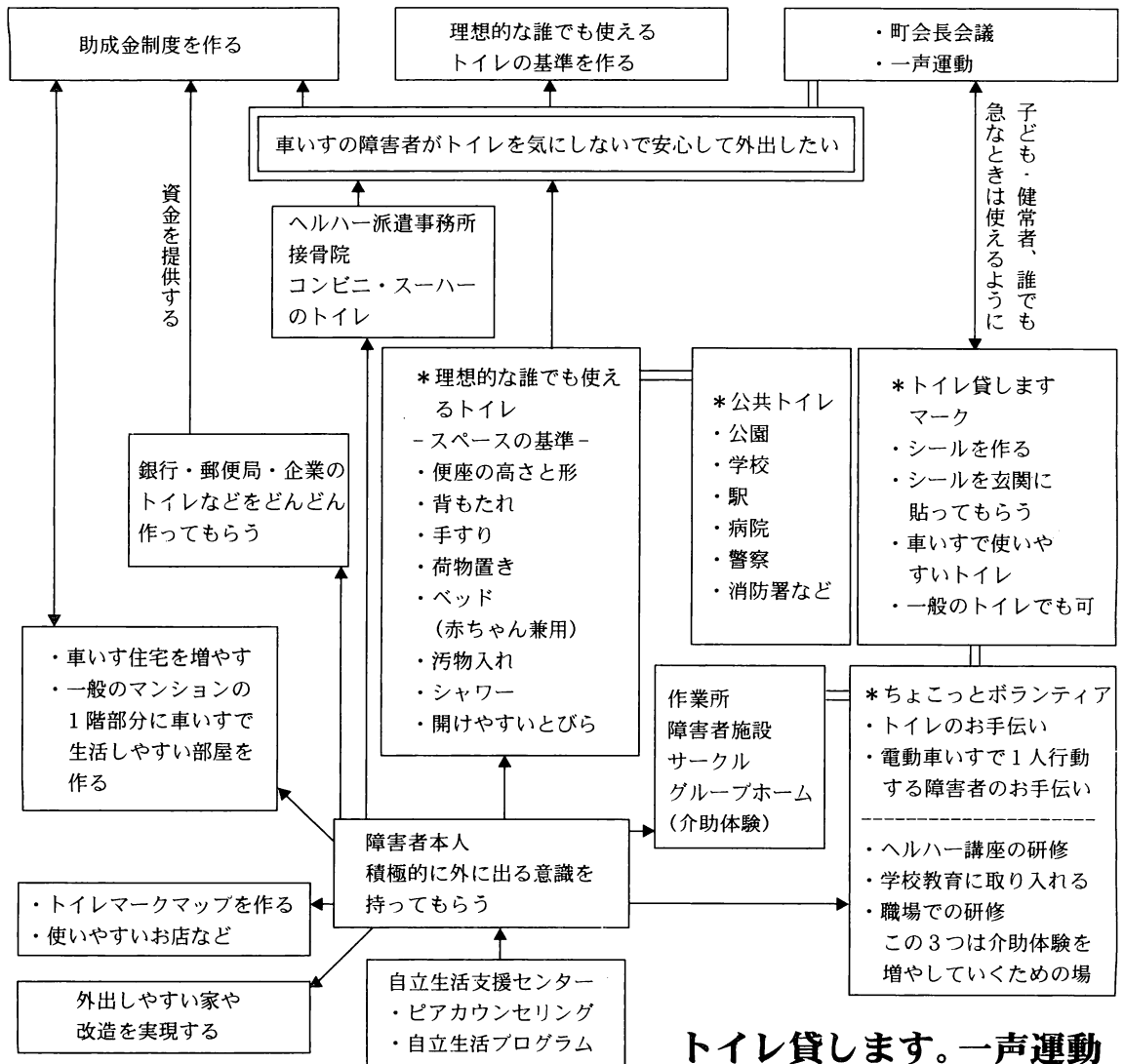
〒558-0002

大阪市住吉区长居西1-9-1 キミハウス1階

TEL 06-6609-3133

FAX 06-6609-3210

メール cll-mydo@jasmine.ocn.ne.jp



トイレ貸します。一声運動

# Mai スウェーデン 留学記 1

スウェーデンって？

はじめまして。私は、妹が障害者であることがきっかけで社会福祉を勉強している大阪教育大学大学院生です。ここでの出会いを通して、いろんな方から教えていただけたらと思っています。

さて、私は、2005年6月から1年間、スウェーデンの南部・スモーランド地方と呼ばれるヴェクショーという街に留学をする機会をいただきました。ヴェクショーはたくさんの森と湖に囲まれ、スウェーデンの有名なガラス工場地帯がある拠点都市として、ま

た、環境都市として知られている小さな都市です。

私はヴェクショー大学で、スウェーデンの社会福祉を学び、またスウェーデンでどのように障害のある方に対してサポートしているのかを実際に施設などを訪問したりして学んだり、様々なスウェーデンの行事にも触れながら楽しく過ごしていました。

ところで、みなさんは、「スウェーデン」と聞くと、どういうイメージがありますか？

「福祉先進国」「環境大国」「森と湖のキレイな国」「税金が高い」「白夜の国」・・・いろいろあると思います。

日本から飛行機で10数時間。わずか900万ほどの人口です。スウェーデンも様々な面があるし、まだまだ課題がたくさんある、なにもかも『完璧』な国ではありません。完璧な国なんてこの世界に存在しないように、スウェーデンも日本と同じ普通の国です。

みなさんに、私が1年間スウェーデンで生活してきた中で、感じたこと、見てきたことを福祉に限らず、スウェーデンの伝統行事、食習慣、環境など日々の生活を様々な形でありのままを伝えることができたと思っています。日本の方が優れていて良いところ

もたくさんあるし、スウェーデンの方がいいなあと思うところもあります。私は日本の良さを見直すと同時に、ゆったりした時間が流れるスウェーデンが大好きです。スウェーデンの人は日本について「朝昼晩、お寿司を食べている」とか「日本酒」「芸者」「着物」「日本茶」「日本のアニメ、ゲーム、漫画が面白い国」などのイメージを持っているのですが。

遠いスウェーデンのことを少しでも近い国に感じて、それと同時に日本の良さを見つめるきっかけになってくれれば、本当に嬉しい限りです。まだまだ、日本の時間の速さについていけず戸惑うことも多い私ですが、どうぞよろしくお願いします。(清原 舞)

ありがとうございます。

カンパ、お菓子・お茶・バザー用品の寄贈、また、サロングッズのお買い上げなど、ありがとうございます。

カスターネット、奥田久子、桑田加代子、神城昭子、小西京子、東百合子、平岡太、宝示愛子、山口豊子、その他の方々。(敬称略)



# SALOON

## 隣組ニュース

11月はこのサロンの、どのテーマがお気に入りですか。いい出会いしませんか。

### ■「サロン淀川」11月の出会い

日時：11月19日(日) 午語1時30分～4時  
 内容：家庭の防災について  
 今後予測される南海・東南海地震に備えて  
 ゲスト：小島強氏(防災アドバイザー)  
 会場：淀川区在宅サービスセンター「やすらぎ」  
 [大阪市淀川区三国本町2-14-3]  
 問い合わせ先：淀川区社協(ボランティア・ビューロー) ☎06-6394-2900  
 E-mail: sorajii@iris.eonet.ne.jp

### ■「サロン・にし」11月の出会い

日時：11月11日(土) 午後2時～4時  
 内容：電動車いすについて学ぼう！  
 会場：西区在宅サービスセンター第一会議室  
 大阪市西区新町4-5-14 (西区役所隣)  
 地下鉄=西長堀駅4-A号 出口からすぐ  
 市バス=地下鉄西長堀駅からすぐ  
 ☎06-6539-8075  
 問い合わせ先：関口 ☎090-4281-5641

### ■「サロン・にしよど」11月の出会い

日時：11月23日(木・祭日)  
 午前10時～午後12時  
 内容：イベント「心の子育てネット、にしよど

「がわ」主催に参加。出店  
 場所：大阪市立淀商業高校  
 問い合わせ先：中本勝也  
 ☎090-9864-9678

### ■「ウイズ東淀川」11月の出会い

日時：11月12日(日) 午後1時30分～4時  
 内容：未定  
 ゲスト：河辺千佳氏  
 会場：ギャラリーNOVA 自由空間  
 533-0032 大阪市東淀川区淡路5-10-7  
 問い合わせ先：鈴木昭二  
 ☎・FAX 06-6340-3082

### ■「サロン北」11月の出会い

日時：11月18日(土) 午後2時～4時30分  
 内容：手品とおはなしとサクスの演奏  
 何が飛び出すやら！お楽しみください  
 ゲスト：ケニーさん(こと土屋健二) オーケストラ響・団員(普段のケニーさんは、天五のおいでやす通りの居酒屋「ケニー」で出会うことができます。  
 場所：障害者福祉作業所センター「たけのこ」  
 [大阪市北区本庄東2-6-11 宝来堂ビル1階、本庄川崎公園北側、緑色のテントのあるビル]  
 会場：なし  
 問い合わせ先：サロン北・事務局、担当=谷口政美  
 ☎06-6372-8074  
 FAX 06-6372-8867

### ■「サロンいたみ」11月の出会い

日時：11月18日(土) 午後2時～  
 内容：ハーモニカ演奏会  
 演奏：伊丹ダスターハーモニカ・エコーズ  
 会場：伸幸苑 [伊丹市寺本6-150]  
 問い合わせ先：安藤梨子  
 ☎072-784-1718

### お知らせ

〈サロン・あべの〉11月の出会い

内容：「谷間」にこだわり続けて  
 お客さま…赤松昭さん NPO大阪脳損傷者サ  
 ポートセンター理事長

日時：11月18日(土) 午後1時～4時  
 場所：育徳コミュニティセンター2階  
 TEL 06-66621-1901

最寄り駅 地下鉄御堂筋線「西田辺」  
 会場：なし  
 問い合わせ先：TEL 06-6691-1028 (富田慶子)

至天王寺  
 育徳会館  
 育徳コミュニティセンター  
 至播磨町  
 近畿大阪銀行  
 地下鉄 西田辺  
 三井住友銀行  
 至長居・あびこ  
 シャープ  
 至平野  
 シャープ

# お花ばたけ

お花ばたけの

赤 白 黄色 . . .

たくさんの

花が

ぱつとひらいて

ほほえんで

風に呼ばれて

匂いをくれる

. . . . .

「童謡♪絵はがき」

・野菊

・野なかの薔薇

・ひらいたひらいた

・夏の思い出

・酸模(すかんぼ)の咲く頃



え：石田美禰子

## 童謡♪絵はがき・花Ⅱ

■ 5枚1組 ¥180

### 寄りみち



書店に専門のコーナーが設けられるほど、塗り絵が人気を集めている。ゴッホやミレー、葛飾北斎などの名画の下絵に、原画を参考にしながら色を塗る。原画のイメージを再現するのが基本だが、自分なりの色づかいで、印象が異なる作品に仕上げてもよい。絵が苦手な人でも夢中になれる、俗世間を忘れ、創作に集中すれば、ストレス解消にもなるという。脳全体を活性化させる効果から、認知症患者のリハビリ法としても注目されているらしい。(石)

<サロン・あべの>VOL. 244 発行：平成18(2006)年10月21日 定価¥100  
編集人：<サロン・あべの>運営委員会 表題：中西利香・筆 文中イラスト：石田美禰子  
事務局：〒545-0021 大阪市阿倍野区阪南町6-3-26 富田慶子方<サロン・あべの>  
TEL・FAX 06-6691-1028 郵便振替口座：サロン・あべの 00950-9-26941  
印刷：セルフ社 〒546-0044 東住吉区北田辺町4-23-2 ミスターDビル2F TEL06-6719-8212  
本紙はホームページでもお読みいただけます。書庫は、<http://pweb.sophia.ac.jp/~t-oka/salon/>

一九九一年九月三日第三種郵便物認可(毎日発行)